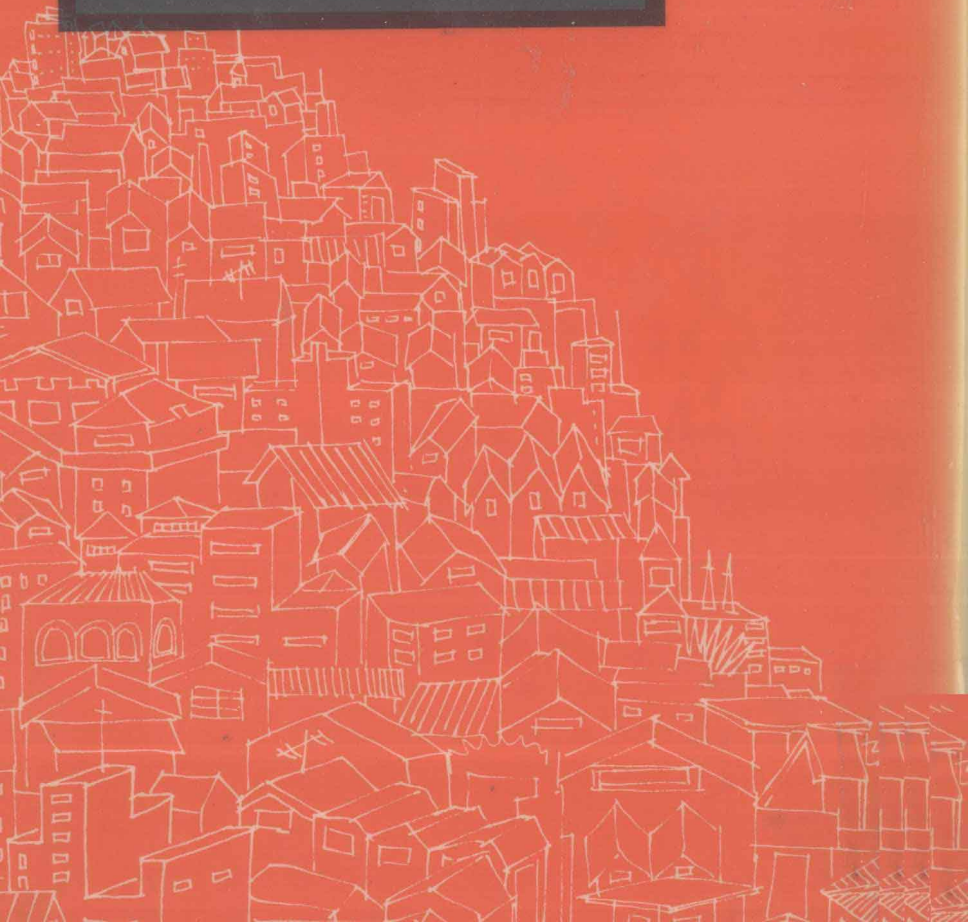
てーぷれこーだ

野田市太郎

黒い笑劇集



てーぷれこーだ

黒い笑劇集

野田市太郎

青雲書房

野田市太郎（のだいちたろう）

昭和5年生れ。東京理科大学理学部卒。劇団「熊」所属。主な作品「隣人」「幸せな日々」「階段」「彷徨家族」。他に高校演劇として「幽霊学校」「高等学校数学Ⅰ」「日曜日にホームドラマはない」など。
現住所　東久留米市学園町 2-16-5

てーぷ・れこーだ

定価　1,200円
昭和52年4月20日　初版発行
昭和57年5月15日　2版発行
著　者　野田市太郎
発行者　川原　昇
発行所　青雲書房
東京都文京区大塚 3-20-4
電話　(03) 944-6002番
振替　東京 0-69543 番
印刷・殖産堂　製本・山本製本
ISBN 4-88079-024-9

もくじ

てーぷ・れこーだ 5

料理 47

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ぶらんこ　107

窓から飛び出せ！　135

装幀・カット　大城隆一

てーぷ・れこーだ

ひとまく

男

てーぷ・れこーだ

娘

てーぷ・れこーだは、私の目には体にぴったりと合った黒い服を着た美しい女に見える

舞台

黒いバックの前に、この世界の安泰を示すかのように白いベンチが一つ。もしかすると木か電柱らしきものも一本

此処は何処なのか

男がベンチにかけている。煙草をポケットからとり出し、空になった箱をすてそのよれよれの煙草を口に銜えて、それからマッチを探す。やっとみつけて火をつけ、マッチ箱をすてると、今度は別のポケットから新聞を取り出して読みはじめる。彼は新聞に熱中する。帽子をいじったり、ネクタイをゆるめたり、何やかやうるさいが、読みだした新聞からは全く目を離すことがない。汗をふく、舌を出す、足をくみ直す、立って尻の下を触ってみる。寸時もじっとしていないのだが、新聞から目を離すことはない

男の隣に黒い服を着た美しい女が腰かけている。これは男と対象的に少しも動こうとはしない。この男がこの女に関心を持たぬはずはないと思うのだが、そ

の期待はしばらく満たされそうもない。女は別に何かを眺めているという風ではなく、下手な役者がよくやるような舞台上での適合への努力というものもみられない。いってみれば、物としてそこへ置かれている状態。ただ早合点して人形のような表情をつくってもらっては困る

若い娘が出て来る。かなり慌てて出て来たのだが、そこに人がいるのを見て、その慌てているのを無表情につつもうとしている努力がみられる。急に立去るのも異様と思ったらしくこの空間への適応を試みる。何気ない風、彼女の以下の会話に心理的裏付けは無用に願いたい。明るく男に声をかける

娘　あのう、此処いいですか

男はまるで、ものでもひっつかむようにしてその黒い女を自分のひざの上にのせる

男　さあ、どうぞ、どうぞ

男は続けて新聞を読んでいる。今度は少しも動かない。彼のひざの上の彼女は

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

重いに違いない。やがて、おろされる運命にある

娘　すいません

若い娘は文庫本をひらいて、この空間に埋まり込む。ひざの上からおろされた女はしばらく娘をみつめているが、やがて笑顔で話しかける

女　どなたか

娘　え

女　お待ちですの

娘　ええ（あいまいに笑う）

娘は、初め話しかけられた時、その声を発したものを探した。そしてそれが中年の男かと考えてみたが、そんなはずはない。彼がそんな美しい声を出すはずもないし、第一みかけ上でも、彼はいまは新聞に夢中なのだ。とすると、声はその黒い服を着た女から発せられたとしか思いようがない

娘は何か不思議な物でもみるような顔で女に返事をする

女　矢張りそうね。お羨ましいわ
娘　あら

この物体はまるで人並みな話し方を、これから先するのである

女　きっと素適な男性。ハンサムで髪が長くて
娘　髪が長い
女　流行でしょ、男の方の髪の長いの
娘　そうかな。（笑う）髭はのばしてたけど
女　きっと剃ってくるわ
娘　どうかな
女　何故
娘　だって、先刻さよならも言わずに別れて来たばかりだもの
女　さよなら
娘　ええ。永遠のお別れね
女　あなたと別れる

娘　ええ、まあ

女　考えられないわ

娘　私も考えられない

女　こんな美しい若いあなたを棄てて

娘　こんな美しい若いあたしを棄てて

女　信じられない

娘　信じられないわ、私も

娘は機械的なやりとりをした。だが女の方には親身以上の親しさをもった口調が出る

女　若いから分別が足りないんだわ。いえあなたではなく、その相手の方。あなたの美しさ、可愛いらしさが、他の何処にでもあると考えてるのよ。若いから世の中をまだよく見てないんだわ。きっと帰って来るわすぐに

娘　それは無理よ。それに、そんなに若くないのよ

女　え

娘　若くないわ、彼

女　ああ

娘　四十五よ！　あたしとふたまわり以上も違うもの

女　あら

娘　世の中を見てないどころか、ありとあらゆるところをみてるの、分別くさくて図々しくて

女　まあ、それじゃあなた

娘　ええ

女　お気の毒に！　それじゃあなた、だまされたんだわ。軽佻(かるはず)みな！　あなたをもて遊んだのよ、その中年男

娘　そうも言えない。彼、もともと妻子があったんだから

女　知ってて

娘　知っててよ、勿論。あたしの方が誘惑したんだから

女　誘惑した。あなたおいくつ

娘　十八

女　それじゃあ、その男があなたに誘惑させたのよ。きっと、宝石かなんかで

娘　いいえ、ネクタイピンを買ってあげたのはあたしの方
女　洋服をあなたに
娘　ピンに似合うネクタイも
女　香水を
娘　ヘヤトニックも買ってやったわ
女　化粧品、フランスの
娘　ひげそりもつけて
女　ひげそり
娘　ええ、メンタムまで
女　あら、でも、彼はすばらしい中年の
娘　いいえ、むさくるしい恰好してたわいつも
女　あの
娘　え
女　いえ（あいまいに笑う。それから中年の男の方を見て、娘をみる）
娘　ええ
女　まさか！

娘　そうよ、よく似てるわ
女　冗談
娘　でなくそう言えば、猫背のあたりなんか
女　猫背
娘　ええそれにガニ股のところも
女　そんな男――そんな男になんか、またどうして
娘　愛してたのよ
女　え
娘　とても幸福だったの
女　あなた
娘　ううん、彼
女　彼
娘　彼も
女　も
娘　ええ
女　あなたも

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com